

国会と維新と保険証

25 日朝、久しぶりに TBS サンデーモーニングを視聴した。ロシア「ワグネル騒乱」から始まり、わが国の国会などを伝えていた。なかでも高橋純子・朝日新聞論説兼編集委員の発言に注目した。高橋さんの「多事奏論」は切れ味鋭く愛読してきたが、テレビでは初めてだ。今国会で重要法案が成立したが、国会での審議に辛口コメントし、とりわけ日本維新の会と国民民主党に批判の目を向けた。

高橋さんの発言を聴いていて、ふと朝日新聞 22 日社説を思い出した。

「岸田政権が昨年末、国民的議論のないまま、安全保障政策と原発政策の「大転換」に踏み切った後、初めて臨んだ通常国会がきのう閉会した。その重みとは裏腹に、150 日間にわたる論戦の内実は乏しかった。世論の賛否が分かれるテーマで、より幅広い合意形成を探る努力はみられず、政権をチェックする立法府の責務が果たされたとはいえ、到底言えない。

日本維新の会と国民民主党の対応には、野党の本分にもとる点があったと言わざるを得ない。両党は、政府予算や防衛財源法などには反対した。ただ、保護されるべき人が送還される恐れなどが指摘された改正出入国管理法には、問題の根本に目をつぶったまま、微修正で賛成に回った。マイノリティーへの差別や偏見の根絶に逆行していると批判される LGBT 理解増進法も、原発推進法も、自民、公明、維新、国民の 4 党の枠組みで成立させた。維新は野党第一党を経て、将来の政権奪取を目標に掲げるが、これでは、与党の補完勢力とみられても仕方あるまい。」

維新と国民は、内閣不信任案に反対し、国民の命と暮らしを脅かすマイナンバー改正法成立に加担した。維新の猪瀬直樹議員の関連質疑は、国民を見下すようで腹が立った。混乱が続くにもかかわらず、両党は現行保険証の来秋廃止を是認するなど、国民のことよりも、政権に追従する姿勢が目についた。

サンデーモーニングでは、写真の「オンライン資格確認システム」が映し出され、カードが読み取れなければ、患者は保険が使えず、窓口で最悪の場合 10 割を請求されると伝える。このシステムは 4 月までの導入を原則義務化（導入しないと資格停止という脅しまで）して、患者だけでなく病院や開業医を苦しめている。

お世話になっている歯科も、高額の機器を導入したが、利用はほとんどなく、念のため保険証で確認しているという。システムを導入できない医院では、廃業するところも出てきているという。来秋に保険証が廃止されたら、停電や機器不調の時にはどうなるか、不安が一杯だと語っていた。現行の保険証は絶対に残すべきだ。



お世話になっている歯科も、高額の機器を導入したが、利用はほとんどなく、念のため保険証で確認しているという。システムを導入できない医院では、廃業するところも出てきているという。来秋に保険証が廃止されたら、停電や機器不調の時にはどうなるか、不安が一杯だと語っていた。現行の保険証は絶対に残すべきだ。

(2023 年 6 月 28 日)